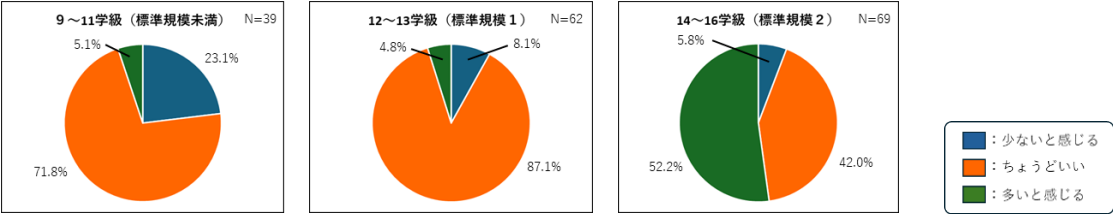


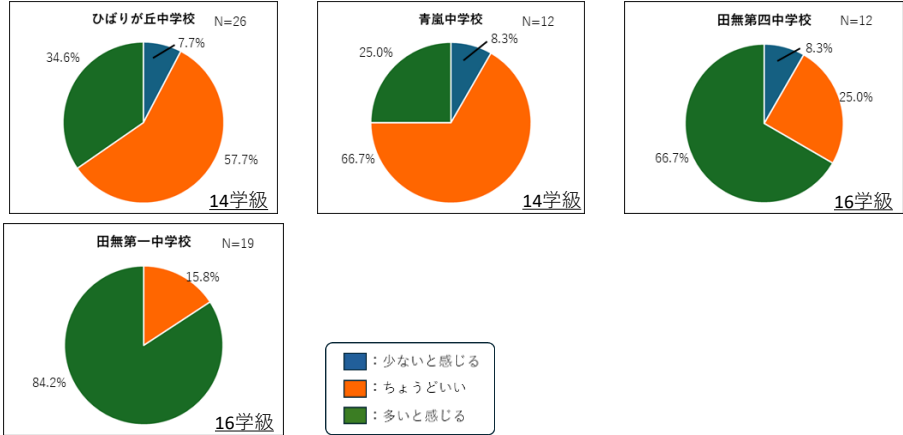
中学校教員 設問7 勤務している学校全体の学級数をどう感じますか。

【分析結果】1校当たりの学級数の目安：16学級未満

- 学校規模別に集計
- 9～13学級の学校においては、「ちょうどいい」と感じている教員が半数以上であった。
 一方で、14～16学級の学校においては、約50%の教員が学校全体の学級数を「多い」と感じていた。



- 14～16学級を学校別に集計
- 田無第四中学校(16学級)においては、ひばりが丘中学校・青嵐中学校(14学級)と比較して、「ちょうどいい」と感じている教員数が約6割減少している。



学級数の増加に伴い「ちょうどいい」と感じている教員数が減少傾向である中、田無第一中学校においては、同規模の田無第四中学校より学校全体の学級数が「多い」と感じている教員が多い。

田無第一中学校の特徴　：　学校の敷地・施設に対して、特別支援学級を含めた学校全体の学級数が多く、教室等の使用状況に大きく影響している。

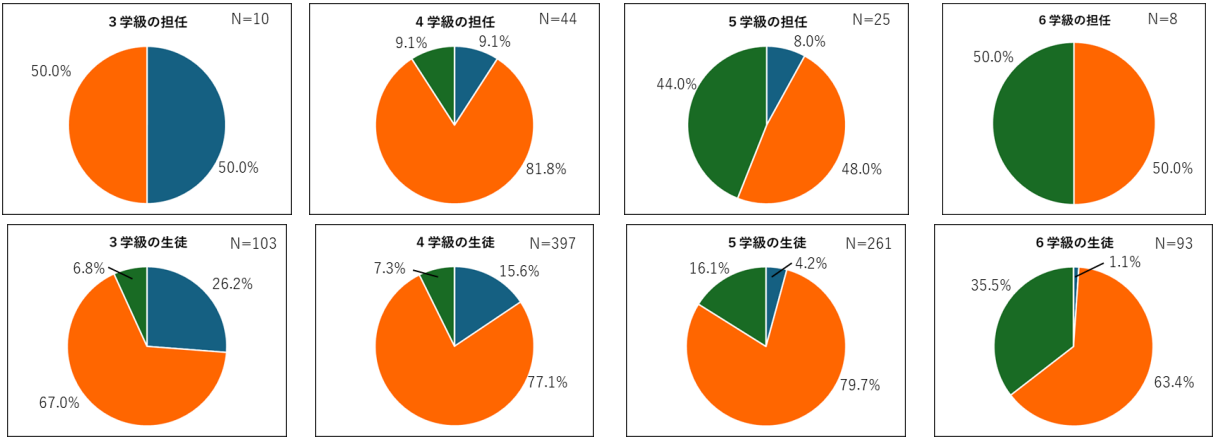
中学校教員 設問8・中学生保護者 設問9 担任・所属している学年の学級数をどう感じますか。

【分析結果】1学年当たりの学級数の目安：4～5学級程度

- 1学年あたりの学級数別に集計

「少ない」と感じている教員・生徒については、3学級以下の場合に急増している。

「多い」と感じている教員・生徒については、5～6学級以上の場合に急増している。



中学校教員 設問9・中学生保護者 設問6 1学年当たりのちょうどいいと感じる学級数について

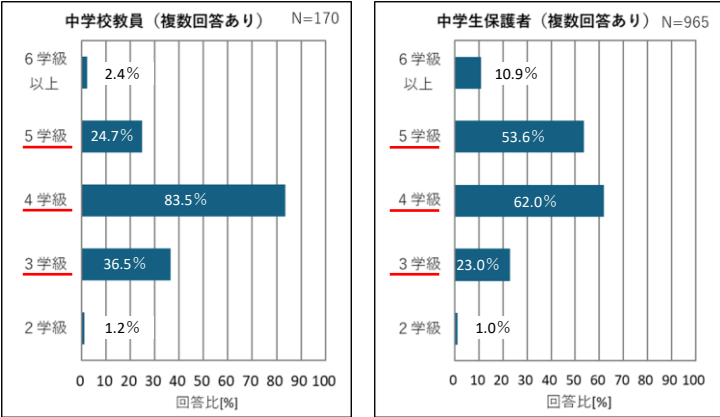
【分析結果】1学年当たりの学級数の目安：4～5学級程度

- 属性別に集計

3学級については、中学校教員の35％程度がちょうどいいと感じているが、中学生保護者では25％程度となっている。

4学級については、中学校教員の85％程度がちょうどいいと感じており、中学生保護者でも60％程度となっている。

5学級については、中学校教員の25％程度がちょうどいいと感じているが、中学生保護者では55％程度となっている。



中学校の適正規模については、アンケート調査の結果を踏まえると、

1校当たり12～15学級（1学年当たり4～5学級）

とする意見が多い。

中学校教員 設問4及び5・中学生保護者 設問3 学級数の多寡により生じている影響・特に配慮すべき影響

- 1校当たりの学級数に関する結果（抜粋）

	選択肢	特に配慮すべきと考える保護者の割合
12～13学級を上回ると大きな影響	特別教室や体育館、プール等の利用に当たって授業の割当てや調整が難しくなる場合がある	43.7%
9～12学級を上回ると大きな影響	学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある	—
14～16学級を下回ると大きな影響	教員数が少なくなり、教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある	43.4%
12～13学級を下回ると大きな影響	部活動の種類が限定され、選択の幅が狭まりやすい	39.8%

- 1学年当たりの学級数に関する結果（抜粋）

	選択肢	特に配慮すべきと考える保護者の割合
5学級を上回ると大きな影響	同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、生徒間の人間関係が希薄化する場合がある	38.5%
3学級を上回ると大きな影響	ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法がとりにくい	33.6%